

カリキュラムマップ(全学科目)

文化政策学部ディプロマ・ポリシー

学習・教育目標	対応するディプロマ・ポリシー(文化政策学部)	
DP1 知識・理解	文化政策に関する幅広い知識を体系的に修得しており、人間や文化の多様性ととも、グローバル・ローカル視点から、現代社会が直面するさまざまな課題についての確に理解している。	DP1
DP2 汎用的技能	課題解決に必要な語学力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、企画立案能力を身につけている。	DP2
DP3 態度・志向性	文化政策への強い関心を持ち、社会の様々な課題の解決に対し、主体性をもって、多様な人々と協働して取り組む意欲・態度を身につけている。	DP3
DP4 総合的な学習経験 と創造的思考力	文化政策に関する学際的・総合的な学習を経験し、社会の発展に寄与できる創造的な思考力を身につけている。	DP4

デザイン学部ディプロマ・ポリシー

学習・教育目標	対応するディプロマ・ポリシー(デザイン学部)	
DP1 知識・理解	デザインに関する幅広い知識を体系立てて修得しており、重要な課題への理解とその解決にあたり、デザインの果たす役割を考える力を身につけている。	DP1
DP2 汎用的技能	磨かれた感性と論理的な思考に基づき、社会に対しデザインを通して提案を行い、その実現をはかる技能を身につけている。	DP2
DP3 態度・志向性	社会のさまざまな課題に対し、主体性と高い倫理観をもってその解決に取り組む意欲と、多様な人々との協働を進める能力を身につけている。	DP3
DP4 総合的な学習経験 と創造的思考力	デザインに関する学際的・総合的な学習を経験し、社会と文化に寄与できる創造的な思考力と提案力を身につけている。	DP4

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
キャリア形成 導入	文化芸術体験演習	1前	1		この科目は、本学での学びにおいて知性や感性を養っていくための入門として開講する。プロフェッショナルの講師による指導のもと、日本の伝統文化や芸術表現を体験する演習をおこなう。学生は、これらの体験や講師による講話を通じ、文化や芸術への接し方および表現力やコミュニケーション力の基礎を学ぶ。	○	-	-	○	-	○	-	○
キャリア形成 導入	学芸の基礎 (国際文化学科)	1前	2		全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。授業はクラスに分かれて行い、大学で学ぶ意味を理解するとともに、高等教育課程での学びの基礎や方法、基本的なリテラシーの素養を身につける。主な内容は、文献等の読み方、情報検索や資料収集、報告・討論、レポート・論文作成の基礎知識、口頭発表の技法や討論方法、高度情報社会への対処法、研究倫理、レポート等作成時における不正行為の防止などであり、大学で学ぶ上で、さらに社会で活躍する上で必要とされる基礎的な能力を養う。	-	○	○	-	-	-	-	-
キャリア形成 導入	学芸の基礎 (文化政策学科)	1前	2		全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。授業はクラスに分かれて行い、大学で学ぶ意味を理解するとともに、高等教育課程での学びの基礎や方法、基本的なリテラシーの素養を身につける。主な内容は、文献等の読み方、情報検索や資料収集、報告・討論、レポート・論文作成の基礎知識、口頭発表の技法や討論方法、高度情報社会への対処法、研究倫理、レポート等作成時における不正行為の防止などであり、大学で学ぶ上で、さらに社会で活躍する上で必要とされる基礎的な能力を養う。	-	○	○	-	-	-	-	-
キャリア形成 導入	学芸の基礎 (芸術文化学科)	1前	2		全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。授業はクラスに分かれて行い、大学で学ぶ意味を理解するとともに、高等教育課程での学びの基礎や方法、基本的なリテラシーの素養を身につける。主な内容は、文献等の読み方、情報検索や資料収集、報告・討論、レポート・論文作成の基礎知識、口頭発表の技法や討論方法、高度情報社会への対処法、研究倫理、レポート等作成時における不正行為の防止などであり、大学で学ぶ上で、さらに社会で活躍する上で必要とされる基礎的な能力を養う。	-	○	○	-	-	-	-	-
キャリア形成 導入	学芸の基礎 (デザイン学科)	1前	2		全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。授業はクラスに分かれて行い、大学で学ぶ意味を理解するとともに、高等教育課程での学びの基礎や方法、基本的なリテラシーの素養を身につける。主な内容は、文献等の読み方、情報検索や資料収集、報告・討論、レポート・論文作成の基礎知識、口頭発表の技法や討論方法、高度情報社会への対処法、研究倫理、レポート等作成時における不正行為の防止などであり、大学で学ぶ上で、さらに社会で活躍する上で必要とされる基礎的な能力を養う。	-	-	-	-	-	○	○	-
キャリア形成 情報・データサイエ ンス	ICTスキル基礎	1前		1	この科目では、本学における諸々の学びにおいてコンピュータを使用するための基礎的知識とインターネットを安全かつ有意義に活用するために必要な情報倫理、情報セキュリティ、著作権、知的財産権について学ぶ。また、文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェアの基本的操作およびそれらを使ったレポート作成の方法やプログラミングの導入知識を身につけるための演習をおこなう。	-	◎	-	-	-	○	○	-
キャリア形成 情報・データサイエ ンス	デジタル表現基礎	1後 (文) 1前 (デ)	1 (デ)	1 (文)	デジタル画像は、印刷物、映像、Webなど様々なメディアに使用されており、これらのメディアを通じた情報発信は個人単位でも容易に行うことができるようになった。この科目では、メディアで使用される様々なイメージの作成方法とイメージで構成されるメディアのリテラシーを学び、情報発信する人が知っておくべきデジタル画像の基礎的知識や画像の図形描画や画像処理の基礎的な方法について学ぶ。また、ベクター形式とラスター形式の画像処理方法について、それぞれのアプリケーションの使用方法についても学ぶ。	-	◎	-	-	-	◎	-	-

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
キャリア形成 情報・データサイエ ンス	データサイエンス入門	1後		2	情報通信技術の発展に伴い、多量で多様なデータの取得が可能になった現在、データを用いて有益な知見を引き出す手法であるデータサイエンスの重要性が増している。本講義では、データサイエンスの役割について理解するとともに、現在と今後の情報社会に生きる者として必要なデータ収集の方法、データの読み方、データ分析の方法、データ活用の方法、データの表現方法について、様々な事例に触れながら学んでいく。また、現代社会におけるAIの活用について事例をもとに学ぶ。	○	○	-	-	△	○	△	-
キャリア形成 キャリアデザイン	キャリアデザイン概論	1後		2	人には、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を形成していくことが求められる。そのためには、自分について、社会の現状について、働くことについて理解し、自分の良さを将来の学びや職業に結びつけていく能力が必要となる。本講義では、受講者がこのような能力の重要性について認識し、自分自身の生き方をデザインし、楽しく充実した大学生活や卒業後の社会生活を送るために必要となる知識やスキルについて理解することを目標とする。	△	-	○	△	△	-	○	△
キャリア形成 キャリアデザイン	キャリアデザイン講座	2前		1	自分は将来、どのような専門性を身につけたいのか、どのような仕事や働き方をしたいのか、どのような生活を送りたいのかをイメージするうえで、模範となるべき人の生き方や働き方の事例を学ぶことは有効な方法である。この科目では、社会体験を聴くことを通じて、社会、仕事、企業についての理解を深め、自分自身がどのようなキャリアを選び、そのためにはどのような努力をするべきかを考える。	△	-	○	△	△	-	○	△
キャリア形成 キャリアデザイン	キャリアデザイン演習	2後		1	協力企業や自治体から呈示される課題に対して、チームで実習や調査に取り組み、その解決・改善に向けた具体的な方策を考える実践型の演習をおこなう。社会の現状や課題と向き合い、他者との協働で解決策を生み出す経験を通じ、論理的に考える力、発言する力、議論を円滑に進める力を修得し、社会で働くことのイメージを具体化することを目指す。	-	△	○	△	-	△	○	△
キャリア形成 実践演習	企画立案演習 (旧:A、B)	1前・後		1	政策策定やプロジェクトの企画・立案のプロセスや情報収集・発信の手法を学び、卒業後に社会で活躍するためのキャリア形成に資することも含めた実践的な知識とスキルを身につけるための演習である。受講生数人からなる小グループによる作業を基本とし、地域の課題解決などの領域を中心に、課題の抽出や設定から、実施の方法、成果の評価、プレゼンテーションなどの知識・技術を学ぶことで、現実社会での応用を目指す総合的な演習である。	-	○	○	-	-	○	○	-
キャリア形成 実践演習	地域連携演習A	1前・後		1	地域での実践的な活動を通して地域の特質や地域課題について理解するとともに、課題解決のための知識や技術、行動力を身に付けることを目指す。地域の多様な民間非営利組織、企業、自治体等との連携を中心に特色あるプログラムを複数用意する。年間を通じての活動や集中型のイベントなど、プログラムの内容に応じて多様なスケジュールで授業を展開する。	△	△	△	△	-	○	○	-
キャリア形成 実践演習	地域連携演習B	1前・後		1	地域での実践的な活動を通して地域の特質や地域課題について理解するとともに、課題解決のための知識や技術、行動力を身に付けることを目指す。地域の多様な民間非営利組織、企業、自治体等との連携を中心に特色あるプログラムを複数用意する。年間を通じての活動や集中型のイベントなど、プログラムの内容に応じて多様なスケジュールで授業を展開する。	△	△	△	△	-	○	○	-
キャリア形成 実践演習	自主課題演習 (旧:A、B)	2前・後		1	この科目において、学生は、大学の学びの中から特定のテーマを定め、大学内外、国内外の組織や団体等と連携して実践的な活動をおこなう。組織・団体等が実施している活動の主軸を担う場合と、学生自身が企画・立案した活動をおこなう場合がある。これらの活動の実践を通じ、社会の様々な局面において実践的に活躍するための知識や技術、行動力を身に付けることを目指す。これらの活動は、本学教員の監修のもとで実施する。	△	△	△	△	-	○	○	-

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
教養	文学	1前		2	日本の古典文学を主たる契機として、記紀神話、王朝物語、軍記文学、縁起などを学ぶ。特に全学科目としての位置付けを考慮して、文学の“広がり”と“奥行き”を重視した講義内容を目指す。文芸作品をそのまま読んで鑑賞するのではなく、民俗、祭祀、信仰、伝承といった事例との多視的な比較や、海外の文芸との比較を手がかりとして、文学の展開とその奥行きの深さを考える機会とする。	◎	-	-	-	○	-	-	○
教養	哲学	1後		2	人間が自然環境や社会をどのように認識し、受容あるいは対置などの思考や行動の原理としてきたかについて、帰納や演繹といった論理的な思考、分析的あるいは包括的・構造的な認識の方法、倫理や道德の課題など、我々が人間である限り避けて通れない論理、認識、知識等に関する問題を取り上げる。こうした問題を先人たちはどのように考えたかを解説し、我々自身が今日に生きて出会う様々な問題をどのように考えたらよいかを学ぶ。	◎	-	-	-	○	-	-	○
教養	心理学	1前		2	この講義では、「心のはたらきに関する科学」としての心理学が、人の心についてどのように考え、何を問題にし、それらについてどのような手法で研究しているのかについて講義する。人の心に関する多面的、客観的な視点を養うことがこの講義の目標となる。主に、人の情報処理(認知)、発達、性格、心理臨床などの基礎的なトピックにおける最新の知見について、社会的な事象と関連づけながら概観する。また、簡単な心理実験や質問紙調査の演習をあわせて実施する。	○	-	△	△	○	-	△	△
教養	宗教学	1前		2	人類のあらゆる文化や歴史の広がりの中で、基本的な宗教の概念および定義やその意味、宗教形態に関する概要を講義し、それらを踏まえて宗教が持つ本来の役割とは何かを考察する。あわせて、日本人のものの見方や行動様式について、それがいつ、どのように成立し、また変容していったのかについて、具体的な事例を挙げながら考察する。特に日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、地域社会と人々の関わりを考える。また、現代社会における宗教紛争やカルト、生命倫理問題などにも言及する。	○	-	○	-	○	-	-	○
教養	歴史学	1前		2	歴史学について、その全般を学ぶ。歴史学の科学的手法を前提に、「史料」から歴史像がいかに導き出されるかを、具体例をもとに講義していく。歴史学の分野について、政治外交史・社会経済史・文化芸術史などがあることを紹介し、時代区分として、古代・中世・近代などがあり、空間的には、地域史・一国史・人類史など、様々な歴史叙述の形態が存在することを論じる。文化の多様性と人類の文化芸術活動の背景となった社会の歴史的なあり方に重点をおいて講義する。	◎	-	-	-	○	-	-	○
教養	文化人類学	1後		2	諸社会の社会構造、価値観、社会的行為など、文化の諸局面にみられる多様性を示すとともに、文化の差異の根底に横たわる普遍性についても論じる。世界にはいかに多様な「当たり前」があるかを認識し、自文化を絶対視せず異文化を理解するための基本的な視角が身につくように解説する。文化人類学の学説史上の主な展開についても概説し、同時代を生きる地球上の人々と意思疎通する時に求められる文化的背景の捉え方について考察する。	○	-	○	-	○	-	-	○
教養	日本文化論	1前		2	人々の日々の生活から生み出された事象すべてを文化と捉え、日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、あるいは衣食住の特徴、動植物との関わりなどを文化の事例として取り上げる。かつ、文化は時間的にも空間的にも社会的にも一様ではないという観点に立ち、日本人のものの見方や行動様式が、いつ、どのように成立し、また変容していったのかについて考察する。その際、東アジアをはじめとする諸外国との比較や文化移入のあり方をみることによって、日本文化の特徴をより明らかにしていく。	○	-	△	△	○	-	-	○
教養	静岡学	1後		2	本学が立地する静岡県、ならびにその近隣地域について、歴史、地理、文化、社会、政治、経済などの多面的なアプローチで学ぶ。特に、静岡県とその周辺地域の置かれた地理的条件、歴史的発展の経緯や、地域産業の特性、自治体のビジョンなどについて、各々の専門の講師による講義も交えながら、本学と地域との連携による学習や実践にもつながるような知見を身につける。	○	-	△	△	○	-	-	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
教養	文明と観光	1前		2	外国から日本に訪れる観光客の関心は、その人の生活域によって異なる。例えば、東アジアからの人の多くは、アジアでいち早く近代化した日本像を求めると言われる。他方、ヨーロッパからの人なら、情報化時代にもかかわらず、エキゾチックな世界を期待することも少なくない。この講義では、まず「文明」も「観光」もその意味が多様であることを踏まえ、現代の日本や地域に望ましい「観光」と「文明」の相互の輝きが増す方途を考える。	○	-	△	△	○	-	-	○
教養	ユーラシア文明論	1後		2	ユーラシア大陸で興亡した西アジア文明、南アジア文明、ヨーロッパ文明、東アジア文明といった諸文明を、地域的・時間的に広く展望しながら、日本語で「文明」と言い表わされている現象を理念的に捉え直す。特に、時間的に先行し、地域的にも中心の位置を占める西アジア文明に焦点を当て、古代オリエント文明を取り上げ、それがイスラーム文明やヨーロッパ文明に継承されていく過程を論じる。	○	-	△	△	○	-	-	○
教養	法と社会	1後		2	この授業では、「法」について学ぶにあたって必要となる基礎的な知識や、法的思考力・法的判断力を習得することを目的とする。法とは何か、法の適用・解釈、法の分類についての概説を経て、犯罪と法、家族と法、財産と法、労働と法など、法が規律する社会のさまざまな場面ごとに、関連する法制度をより具体的に検討することで、社会において法の果たしている機能を明らかにしていく。	○	-	-	○	-	-	○	○
教養	経済学基礎	1前		2	現代社会で生きていくためには経済現象に関する深い理解が不可欠であり、その経済現象を正確に理解・分析するためには経済理論の知識が必要である。この授業では、全体として経済理論の前提となる経済に関する知識の習得に主眼を置く。具体的には、文化政策の理解に不可欠な市場メカニズムや市場の失敗を扱うミクロ経済学、景気・失業・物価・金融・為替レートなどを扱うマクロ経済学の基礎を講義し、経済理論や経済政策の学習への橋渡しを行う。	○	-	△	△	-	△	△	○
教養	現代の国際社会	1前		2	「現代の国際社会」の特質を把握するためには、国際社会の歩みについて深く理解することが重要である。この授業では、21世紀の国際社会が直面する諸問題の歴史的理解を深めることを目的に、第二次世界大戦後の国際政治の歩みを概観する。この分野は、関連する一次資料の公開や発見とともに通説が見直され、議論の継続する分野でもある。入門的な知識の習得と同時に、最前線で行われる研究方法の一端に触れることも授業の目標とする。	○	-	-	○	○	-	-	○
教養	社会学概論	1後		2	社会を「人間がつくりだす人と人とのつながり(関係)」とするならば、この関係性を維持するためには「規範」がなくてはならない。社会学は、こうした規範が所与のものとしてあるのではなく、社会によってつくり出されたものであり、この規範が当たり前や常識として個人に刷り込まれていくと考える。つまり、社会学では、個人は社会によって決定されるという前提に立つのである。そこで、この授業では、こうした規範を問い直すことによって社会の成り立ちや仕組みを考え、社会学の基本的・基礎的な考え方を習得する。	○	-	-	○	○	-	-	○
教養	社会調査論	1前		2	社会について科学的に情報を得る(知る)方法の基礎を学ぶ。まず社会調査の意義と主要な方法について学び、次に方法論について理解し、その後、質問紙法、面接法、観察法、内容分析などの具体的方法とその特徴を学ぶ。方法の技能を学ぶだけでなく、調査目的と対象により最も適切な方法が選べるよう、調査の特性と限界についても解説する。また、実際に使われている様々な社会調査の信頼性と長所・短所を評価し、基本的な調査を自ら実施するための知識を身に付ける。	-	◎	-	-	-	○	-	○
教養	情報社会論	1後		2	現代社会はIT化の進展に伴いそのメディア環境を大きく変容させ、それにより生じた高度情報化社会は私たちの日常生活や文化にも大きな影響を与えている。この授業では、こうした高度情報化がもたらした社会の諸現象に着目し、その特質や問題点を理解することを試みる。さらにその理解に基づき、情報化が進展していく社会における人々の行為やコミュニケーションのあるべき方向性を考察し、その社会における生活や倫理観のあり方を検討する。	○	-	-	○	○	-	-	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
教養	人権論	1後		2	この授業では、現代社会において生じている、あるいは未解決のままに残されているさまざまな問題を、私たちの「人権」にかかわる問題として認識し、それらについて理解を深めることを目的とする。そもそも人権とは何かについての総論的な概説を経て、個々の問題・事例について、国内外の状況に目を向けながらより具体的に検討することで、現代社会において目指すべき人権保障のあり方を考察する。	△	-	○	△	-	-	○	○
教養	数学概論	1前		2	本講義では、社会を理解するために必要となる数学の基礎を学ぶことを目的とする。高等学校で学んだ内容を発展させて、数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的・論理的な見方や考え方の良さを再認識し、事象を数学的に考察し処理する能力を身に付けることを目標とする。同時に、様々な社会問題やデザインにおける課題を解決する際に要求される論理的思考力を身につけていく。	△	○	-	△	-	○	-	○
教養	科学技術論	1前		2	現代社会のさまざまなシステムやモノには科学技術が不可欠であることを前提に、科学技術が広範かつ深遠な影響を人間社会に与えていることの認識を深めて、現実の科学技術を正しく理解する力を養うことを目的とする。今日に至る科学技術の発達経緯を概観する中で、現代の科学技術の特質・潮流を考察するとともに、科学技術と社会との関係の中で生ずる摩擦や諸問題など、科学技術を取り巻くさまざまな環境変化について検討する。	△	-	△	○	○	-	△	△
教養	サステナブルデザイン	1前		2	人々の活動によって地球資源の枯渇や環境問題が起こり、世界規模で異常気象が多発している。地球や自然を保全するだけでなく、未来の世代に向けて持続可能な社会を形成することは、現代に生きる我々が共通して負うべき責務である。サステナブルデザインの役割を学び、理解を深め、地球と人の未来の為に各自が今できることを考え、サステナブルな考え方や物の見方を自分の生活に活かしていく手法を習得することを目的とする。	○	-	-	○	◎	-	-	-
教養	健康科学	1後		2	この講義では、まず、現代社会における「健康」の基本的な概念やその背景について概観し、各ライフステージにおける健康とその阻害要因、心身の健康に対する運動の影響、健康増進のための施策、生活習慣病の発生機序と予防のための施策について学習する。さらに、健康増進および生活習慣病の予防等に効果的な運動・トレーニングの方法について、運動生理学やトレーニング科学の視点から学ぶ。	○	-	-	○	-	-	-	◎
教養	Japanese Cultural Studies	1後			本科目では、日本文化独特の特徴、およびそれらの特徴と異文化との相互作用の様相に着目して、日本文化を包括的に探求する。広範囲のトピックを対象とする学際的なアプローチを通して、日本文化の様々な側面について議論する。日本文化の豊かさについての知識を得るだけでなく、それらをより広範な、グローバルな文脈に結びつけて理解するための見識を養うことを目指す。	○	○	-	-	○	-	-	○
教養	音楽と社会	1前		2	音楽は社会と密接に関わり、新たに生成され、変化していく。こうした音楽と社会のダイナミックな関わりを考察するために、19世紀後半から20世紀にみられた大衆社会の形成、市場経済の成長、マスメディアの発達という視点から、アメリカを中心に発展していったポピュラー音楽と日本のポピュラー音楽について概観することが、本講義の狙いである。	◎	-	-	-	○	○	-	-
教養	芸術と社会	1前		2	人間にとって芸術とは特別な意味を持つものである。この科目では、人間の行う表現行為がどのように芸術というものに形づくられていくのか、芸術が人間にとってどのような意味を持ち、またどのように展開するのかについて、芸術の多様なジャンルの中から具体的な事例を示しながら考察する。さらに、人間の表現が時代や場所の異なるところで様々な展開を遂げ、現在のように豊かな様相を見せている状況を、芸術諸分野における最新の情報を交えつつ概観する。	◎	-	-	-	◎	-	-	-

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
教養	色彩・形態論	1前		2	文化および芸術への理解を深める上で重要となる、色彩・形態の基礎について学ぶ。自然物から人工物に至るまでの多様な事例を取り上げ、色彩・形態面における特徴を読み解く。また、さまざまなデザイン分野の事例を造形および配色の観点から分析し、色彩・形態がもたらす心理的効果や機能など基本的な理論について学習するとともに、現代社会に求められる色彩・形態の役割と在り方について知見を深める。	○	-	-	○	◎	-	-	-
教養	映像メディア論	1後		2	様々なメディアを通して日々膨大な量の映像を消費する現代社会。多彩で刺激的な表現を競うように変貌を続ける映像メディアの可能性と問題点を包括的に検証する。映像メディアの変遷とそれに同期して人間自身の内部で進行している変化に着目し、＜メディアは身体性の拡張である＞という視点から人とメディアの関係性について考察する。視聴覚資料を使用し、学生自身が感じ、考えながら映像メディアへの問題意識を深める。	○	-	-	○	◎	-	-	-
教養	空間デザイン (旧：空間とデザイン)	1後		2	「空間」や「デザイン」という言葉を用いる時、その言葉はどのようなことを意味しているのか、具体的な事例を提示しながら考えていく。そして、「空間をデザインすること」は自然や人間社会に対してどのような役割を担っているのか、その楽しさや重要性を学ぶ。空間デザインを理解することによって、空間は生活の中の様々な時間を創造してくれることに気づき、その要因の歴史的背景や現代における表現手法を読み取る感覚を育てる。	○	-	-	○	◎	-	-	-
教養	デザイン史	1前		2	デザインの歴史を俯瞰することで、近代デザインの成立から現在に至るまでの主要な出来事や知識、社会における役割を学ぶ講義である。科学技術、産業、政治経済、芸術など先端的または広範な人間の営みと文化が、様々な時代でどのようにデザインと結びつき、どのようなものが作られたか、それらにどのような意味があるのかを探究し、デザインの世界に私たちの生活から切り離せない幅広さと社会的意義があることを考察する。	◎	-	-	-	◎	-	-	-
教養	青年心理学	1後		2	青年期の発達心理学的特徴の理解を目的とする。青年期は前期(思春期)、中期(高校生)、後期(大学生および就職まで)と大きく分けられるが、この科目ではまず、思春期以降の青年中期の心理的特徴を中心に講義し、そこで得た知識をもとに自身の経験を理解できるようにする。さらに、現在青年期後期にある自分自身や友人の心理的な側面について発達の視点から考察できるようになることを目指す。	-	-	○	○	-	-	○	○
必修外国語 英語	英語中級IA (Speaking and listening) (旧：英語コミュニケーションⅠA)	1前		1	高校までに習得した英語の語彙、文法、表現を基礎として、「聞く・話す」ための運用能力を高めることを主な目的とする。聞く面では、自然な速さの平易な英語を大量に聞き、その概要および特定の具体的な情報を聞き取れるようになることを目指す。また、話す面では、特に自分の経験や関心のある具体的なトピックについて積極的に話し、会話を続けることができるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	英語中級IB (Reading and Writing) (旧：英語コミュニケーションⅠB)	1前		1	高校までに習得した英語の語彙、文法、表現を基礎として、「読む・書く」ためのさらなる知識と運用能力を高めることを目的とする。読解能力を高めるために、必要に応じて辞書を利用しながら比較的幅広い分野の英文を大量に読み、その概要と具体的な情報を読み取れるようになることを目指す。また、書く面では、既習の基礎的な英語を広く使ってまとまりのある文章が書けるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	英語中級IIA (Speaking and Listening) (旧：英語コミュニケーションⅡA)	1後		1	英語中級ⅠAで身に付けた「聞く・話す」ための運用能力をさらに伸ばすことを目的とする。自然な速さで話される英語を聞き取り、自分自身の考えと照らし合わせながらその内容を理解できるようになることを目指す。また、授業で扱うトピックに関して、英語で自分の考えをまとめ、その内容を話せるように繰り返し練習することで、英語による情報のやり取りが滞りなくできるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
必修外国語 英語	英語中級ⅡB (Reading and Writing) (旧:英語コミュニケーションⅡB)	1後		1	英語中級ⅡBで身につけた「読む・書く」ための運用能力をさらに伸ばすことを目的とする。様々なトピックの英文を、文章の構成を意識しながら読み、複数の視点の相違点や共通点を考慮に入れながら解釈ができるようになることを目指す。また、今までに身につけた英語の知識を基礎として、辞書を適切に使いこなし、新たな語彙や表現を取り入れながら、自分の考えをできる限り詳しく英語で書くことができるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	英語上級ⅠA (Speaking and Listening) (旧:英語コミュニケーションⅢA)	2前		1	英語を「聞く・話す」面の発展的な力を養うことを目的に、授業はすべて英語で行う。幅広いトピックについて、言語的な調整がなされていなくても、話者の意図が理解できるようになることを目指す。また、現代の問題など一般的に関心の高い分野のトピックについて、自分自身が調べた情報の詳細を提供し、関連する自分の考えをできる限り正確かつ流暢に表現し、議論できるレベルを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	英語上級ⅠB (Reading and Writing) (旧:英語コミュニケーションⅢB)	2前		1	英語を「読む・書く」面の発展的な力を養うことを目的とする。一般的な内容の文章から、新聞記事やレポートなどの専門的文章までの英文の概要を素早く読み取り、状況に応じて深く読む必要がある場合は読む速さや読み方を変えながら正確に読めるようになることを目指す。また、自分の専門分野について、情報の確度、感情の度合いなどの面で、ある程度複雑な英語表現を身につけ、それらを用いて適切な英文を書くことができるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	英語上級ⅡA (Speaking and Listening) (旧:英語コミュニケーションⅣA)	2後		1	主として英語によるディスカッションやディベートを通し、英語上級ⅠAで学んだ「聞く・話す」面の流暢さと正確さをさらに高めることを目的とする。一般的なものから高次なものまで様々なトピックについて、英語で自ら情報を収集し、それらを体系化し、論理的に構成された発表を英語で行なうとともに、話し相手の英語を正確に理解しながら、詳しく議論し、結論に到達できるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	英語上級ⅡB (Reading and Writing) (旧:英語コミュニケーションⅣB)	2後		1	英語上級ⅡBで学んだ英語の「読む・書く」力を、専門的な分野を扱えるレベルまで高めることを目的とする。専門の記事から文学作品や論文まで長く複雑な文章を、文体の違いを認識しながら深く理解し読めるようになることを目指す。また、手紙、説明文、レポート、報告記事、批評、論文などを、論理的に明確な構造で、読み手に重要な点がわかるように、明瞭かつ適切な文体で書けるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	マルチメディア英語Ⅰ	2前		1	この科目の目的は、一般的なオンラインアプリケーションやデジタルプラットフォームを活用し、学生の英語の技能とメディアリテラシーを向上させることである。学生は、英文文書およびデジタルコンテンツの作成やソーシャルメディアを通じた相互交流を含む、様々なオンライン上の課題に取り組むことを通じ、デジタル環境でグローバルに英語で情報発信するための能力を身に付ける。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	マルチメディア英語Ⅱ	2後		1	この科目の目的は、一般的なオンラインアプリケーションやデジタルプラットフォームを活用し、マルチメディア英語Ⅰで身につけた英語の技能とメディアリテラシーをさらに向上させることである。学生は、英文文書およびデジタルコンテンツの作成やソーシャルメディアを通じた相互交流を含む、様々なオンライン上の課題に取り組むことを通じ、デジタル環境でグローバルに英語で情報発信するための能力をさらに高める。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	ビジネス英語Ⅰ	3前		1	グローバルなビジネス社会で活用されているビジネス英語と文章作成方法の基礎を身につけ、国際的なビジネスの現場で通用する英語能力を身につける。具体的には、英文レターの形式、ワンレターワンサブジェクトの原則、句読点の慣用、レターの折りたたみ方など商用英文レターの基礎知識を中心に学習する。次に、ビジネス社会でよく使われている英語ビジネス文章の例文を学習し、それらを活用して学生が自分で書いた文章を分析したり、間違った表現を訂正するなどの作業を通じて実践的な英文レターの書き方を習得する。	-	◎	-	-	-	-	○	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
必修外国語 英語	ビジネス英語II	3後		1	実務レベルでさらに実践的なビジネス英語の文章作成法を学ぶとともに、海外・国内で外国人と交流する際に必要なマナーを身につける。具体的には、いくつかの実務状況を設定して学生に英文レターを作成させ、それらを分析しながら効果的なレターの書き方を習得する。さらに、外国人と交流する際の常識的なマナー、文化や習慣の違いからくる注意点、儀礼（プロトコール）、およびそれらに対応した英語表現を、実践的な場で使えるようになることを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 英語	Online English Studies	1前・後		1	英語の実践的な聴解力及び読解力の修得を目指す科目である。授業は、全てオンデマンド形式の遠隔授業にて行い、民間事業者が提供するオンライン学習サービスを活用しながら、英語の初心者から上級者まで、それぞれの語学力に応じたレッスンを提供する。この科目の主な対象者は、TOEIC Listening & Reading等の英語の検定試験の受験を予定する者とする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	中国語初級IA(文法) (旧:中国語コミュニケーションⅠA)	1前		1	中国語を学ぶ上で難しいとされる発音を十分に練習し、まず、ローマ字表記(ピンイン)を見て単語を正確に発音できるようにし、中国語の発音とリズムに慣れていく。また、日本語の常用漢字と異なる中国語の簡体字に習熟する。文法については、中国語の基本的構文パターンの習得を中心に学び、簡単な文章を読み、基礎的な文を組み立てる能力を伸ばしていく。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	中国語初級IB(会話) (旧:中国語コミュニケーションⅠB)	1前		1	基本文法、よく使う文型、日常生活で使われる頻度の高い中国語の言い回し(センテンス)を中心に学習する。さらに、ヒアリングや対話の練習を繰り返すことで、基本文法の習得とともに、「聞く、話す」能力をバランスよく身につける。基礎的な「聞く・話す」能力を活かし、挨拶や簡単な自己紹介、日常会話ができるようになることを目標とする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	中国語初級IIA(文法) (旧:中国語コミュニケーションⅡA)	1後		1	中国語初級ⅠAに引き続いて、文法に重点を置き、複合的な中国語文の構造について学んでいく。中国語文を日本語に翻訳したり、日本語を中国語に翻訳したりすることを重ねて、文法の運用能力を高める。中国語の仕組みの全体を把握し、平易な雑誌・新聞記事等の読解や簡単な作文ができるようにする。これらの学習を通じて、中国の社会や文化に対する理解も同時に深める。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	中国語初級IIB(会話) (旧:中国語コミュニケーションⅡB)	1後		1	中国語初級ⅠBに引き続いて、語彙力を高めつつ、より複雑な中国語の言い回し(センテンス)を習得し、運用能力を高める。テキストの音読練習を十分行ったうえ、テキストと視聴覚教材の内容を踏まえてテーマを設定し、対話練習を重ね、より実用的な会話能力・ヒアリング能力の育成を図る。これらの学習を通じて、中国の社会や文化に対する理解も同時に深める。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	中国語中級IA(文法) (旧:中国語コミュニケーションⅢA)	2前		1	中国語初級で習得した文法の運用能力を高め、より高度な語彙と複雑な表現を身につけることを目指す。比較的難易度の高い複文構造を含む中国語の文章を精読し、その具体的な情報を把握できるようにする。また、中国の政治・経済・文化・社会に関する中国語の新聞・雑誌記事を適宜取り入れ、辞書を利用しながら新聞・雑誌を概ね理解できるレベルを目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	中国語中級IB(会話) (旧:中国語コミュニケーションⅢB)	2前		1	中国語初級で中国語の正しい発音とリズムを習得した学生に対し、視聴覚教材を積極的に利用し、ヒアリング能力のさらなる向上を図る。また、中国の政治・経済・文化・社会に関する中国語の新聞・雑誌記事の内容からテーマを決め、対話練習を重ね、スピーキング能力の向上を図る。与えられたテーマで学生が自分から積極的に発話できるよう練習し、コミュニケーション能力の向上を目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
必修外国語 中国語	中国語中級IIA(文法) (旧:中国語コミュニケーションⅣA)	2後		1	中国語中級 I Aに引き続いて、高度かつ豊富な語彙と複雑な文法表現を身につけることを目指す。難易度の高い複文構造や微細なニュアンスが伝わる言い回しを含む中国語の文章を精読し、その具体的な情報を的確に把握できるようにする。また、中国語ニュースの内容を適宜授業に取り入れ、それを解読するとともに簡単なコメントや感想文を正確に書けるレベルを目指す。単に、知識としての言葉ではなく、現代中国社会を理解するツールとしての中国語の習得に特に重点を置く。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	中国語中級IIB(会話) (旧:中国語コミュニケーションⅣB)	2後		1	中国語中級 I Bに引き続いて、視聴覚教材を積極的に利用し、中国語のニュースを適宜取り入れることでより高いレベルのヒアリング能力を育成する。また、中国の政治・経済に関するニュースの内容からテーマを設定し、対話練習を重ねていき、特定のテーマをめぐって論理的に会話できるようにする。単に、知識としての言葉ではなく、現代中国社会を理解するツールとしての中国語の習得に特に重点を置く。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 中国語	マルチメディア中国語	1後		1	この科目では、各種視聴覚教材を取り入れ、中国語の正しい発音の徹底を目指し、語彙力、ヒアリング能力の向上を図りながら、日常生活の様々な場面に応じた会話表現を学び、自然な生活中国語を習得することを目指す。中国語での学生相互の対話練習を重点的に行い、感覚的に中国語を捉えられるようにすることを目標とする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 フランス語	フランス語初級IA(文法) (旧:フランス語コミュニケーション I A)	1前		1	文法に重点を置いてフランス語の基礎を学ぶ。発音の規則やつづり字記号について理解し、フランス語を声に出す練習を行う。動詞の活用、名詞と形容詞の性数の区別など、フランス語の基本構造を習得する。例文を読み、問題演習を行うことで、文法事項を把握する。動詞の活用や名詞等の性数の違いについて調べながら、辞書の使い方も学ぶ。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に触れ、フランス語を学ぶことと現在の世界とのつながりを意識できるようにする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 フランス語	フランス語初級IB(会話) (旧:フランス語コミュニケーション I B)	1前		1	平易なテキストをもとに、日常生活で使用される頻度の高い、基礎的なフランス語の言い回しについて学ぶ。フランス語の音声を聞き、発音・発話練習をくりかえすことで、「聞く・話す」能力を習得する。挨拶、自己紹介、好き嫌いを言う、ものや人物について述べるなど、フランス語で簡単な自己表現と意思疎通ができることを目標とする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化にたいする理解を深め、フランス語学習を発端として異文化について考える。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 フランス語	フランス語初級IIA(文法) (旧:フランス語コミュニケーション II A)	1後		1	フランス語初級 I Aに引き続いて、文法に重点を置いてフランス語の基本を学ぶ。例文を読み、問題演習を行うことで、新たな文法事項を把握する。時制、人称代名詞、関係代名詞などの文章構造に慣れ、基本的な語彙や表現をさらに身につけていく。主要な文法事項について概要をつかみ、自ら辞書を引いて簡単なフランス語の文章を読めるようになることを目標とする。発音にも慣れ、自然な速さでの音読ができるようにする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 フランス語	フランス語初級IIB(会話) (旧:フランス語コミュニケーション II B)	1後		1	フランス語初級 I Bに引き続いて、日常生活で使用される頻度の高い、基本的なフランス語の言い回しについて学ぶ。フランス語の音声を聞き、発音・発話練習をくりかえすことで、「聞く・話す」能力を高める。買い物、レストランでの注文、道をたずねる、自分の生活について語るなど、実際のコミュニケーションの場面で役立つ表現を身につける。フランス語のリズムにも慣れ、自ら積極的に発話できるようにする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化にたいする理解も、さらに深める。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 ポルトガル語	ポルトガル語初級IA(文法) (旧:ポルトガル語コミュニケーション I A)	1前		1	本授業ではポルトガル語の文法の基礎を中心に学ぶ。ポルトガル語圏諸国の文化に触れながら、教科書を含むいくつかの教材をもとに日常会話において頻繁に登場する最重要表現や基本単語の正しい綴り方や発音方法を習得するほか、基礎文法に関する理解を深めるなどして、総合的(読解、作文、聴解、会話)なポルトガル語の力を高める。	-	◎	-	-	-	-	○	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
必修外国語 ポルトガル語	ポルトガル語初級IB(会話) (旧:ポルトガル語コミュニケーション I B)	1前		1	浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれている。本授業ではそうした機会も活用しつつ、さまざまな実践的演習により、ブラジル人(および他のポルトガル語圏諸国の人々)との交流に際し必要となるであろう基礎的な会話力、読解力、作文力の習得を図る。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 ポルトガル語	ポルトガル語初級IIA(文法) (旧:ポルトガル語コミュニケーション II A)	1後		1	本授業では、ポルトガル語初級 I A・I Bを継続し、日常会話を中心にポルトガル語の文法を学ぶ。ブラジルをはじめとしたポルトガル語圏諸国の文化に関する知識を深めつつ、教科書を中心とした複数の教材もとに重要な語彙や基本文法について学び、作文、読解、会話、聴解能力の向上を目指す。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 ポルトガル語	ポルトガル語初級IIB(会話) (旧:ポルトガル語コミュニケーション II B)	1後		1	本授業では、ポルトガル語初級 I A・I B・II Aで学習した文法や文章表現などの基礎をもとに、読解力、作文作成の方法をマスターする。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住している。授業内ではクラスをグループ分けし、それぞれのグループで作成したスキットを発表するなど、それらの人々との社会的な交流を想定した実践的な演習を行う。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 韓国語	韓国語初級IA(文法)(旧:韓国語コミュニケーション I A)	1前		1	韓国語を「読む・書く」能力の基礎を身につけることを目指す。ハングル文字の仕組みを理解し、発音訓練を重ねるとともに、基本的な単語・語彙や文法について学習する。また、日本人が間違いやすい点に留意しながら、新聞や雑誌などの記事を用いた読解にも取り組む。日本と韓国の習慣や日常生活における違い等についても扱う。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 韓国語	韓国語初級IB(会話)(旧:韓国語コミュニケーション I B)	1前		1	韓国語を「聞く・話す」能力の基礎を身につけることを目指す。まず、ハングル文字の仕組みや発音の仕方について学び、韓国語の構造や原理を理解した上で、慣用的な挨拶をはじめ、基本的な語彙や日常会話の表現を学習する。日本人が間違いやすい点に留意しながら、発音練習と聞く訓練を繰り返す。日本と韓国の習慣や日常生活における違い等についても扱う。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 韓国語	韓国語初級IIA(文法)(旧:韓国語コミュニケーション II A)	1後		1	韓国語初級 I Aに引き続き、韓国語を「読む・書く」能力の基礎を身につけることを目指す。聴き取りや書き取りを中心にしながら、基本的な単語・語彙や文法を学習するとともに、新聞や雑誌などの記事を辞書を引きながら読解したり、書き取り練習を繰り返したりする。あわせて、韓国の社会と文化の理解を深めることを目標にする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 韓国語	韓国語初級IIB(会話)(旧:韓国語コミュニケーション II B)	1後		1	韓国語初級 I Bに引き続き、韓国語を「聞く・話す」能力の基礎を身につけることを目指す。韓国語の基本的な構造や原理を理解した上で、特に日本人が間違いやすい点などに留意しながら、慣用的な挨拶をはじめ基本的な文法について学習する。あわせて、発音練習と聞く訓練を繰り返す。また、韓国の社会と文化の理解を深めることを目標にする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 インドネシア語	インドネシア語初級IA(文法) (旧:インドネシア語コミュニケーション I A)	1前		1	インドネシア語基本文法の理解および初歩的な文章表現の習得を第一の目標とする。日本語や英語と比較しながら、その全体的特徴を認識した上で語順、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数字、時刻/時間、年月日/曜日、語根動詞/Ber動詞、接辞Me-、形容詞/副詞、前置詞、助動詞、辞書の使い方などを学習する。授業では、指定テキストとともに配付プリントの練習問題に取り組むことにより、語彙を増やし会話をする際の文法的基礎を築く。	-	◎	-	-	-	-	○	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
必修外国語 インドネシア語	インドネシア語初級IB(会話) (旧:インドネシア語コミュニケーション I B)	1前		1	日常会話に不可欠な語彙や表現を知るとともに、やや複雑な技法を用いた会話表現習得を目指す。発話練習を繰り返しながら、数字、時間、年月日など文法授業で学んだ事柄を会話で活かせるよう表現についても学習する。挨拶や自己紹介、他者への指示や依頼の仕方などの日常表現を使えるようにする。また、指定されたトピックについて短い発表や質疑応答ができる能力を身につける。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 インドネシア語	インドネシア語初級IIA(文法) (旧:インドネシア語コミュニケーション II A)	1後		1	インドネシア語初級 I Aでの学習を踏まえた上で、より複雑な各種接辞 (Me-kan / Me-i / Member-, An/Pe-, Per-an/Pe-an, Ter-, Ke-an, -Nya/Se/Se-nya) や受動態、関係代名詞などを学習し、さらに高度な文法事項の習得を目指す。さらに、昔話他簡単な読み物の講読や映画、ドラマ、ドキュメンタリーの鑑賞を通じ、文法の定着と読解力の強化を図る。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 インドネシア語	インドネシア語初級IIB(会話) (旧:インドネシア語コミュニケーション II B)	1後		1	この科目では、インドネシア語初級 I Bの内容を拡大、発展させ、会話能力のさらなる強化を図る。日常会話に必要な語彙や表現の学習に加え、いくつかのトピックについての小作文の作成やそれに基づく発表・質疑応答などの対話型の課題に取り組むことにより、慣用表現や質疑応答の仕方について学習する。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 イタリア語	イタリア語初級I (旧:イタリア語コミュニケーション I A)	1前		1	イタリア語の基本文法を重点的に学ぶ。単語力をつけ、名詞の性数変化、現在形の動詞活用をマスターすることに主眼を置く。生活の各場面に応じた基本フレーズを暗記し、グループワークの中で反復練習することによって文の構造を理解し自分で作文できるようにする。発話を録音し自分の耳で聞いて自発的な学習を習慣づける。イタリアの社会や歴史、生活文化の事象も学びながら、「自分のこと」について表現できることを目標とする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 イタリア語	イタリア語初級II (旧:イタリア語コミュニケーション I B)	1後		1	イタリア語初級 I に引き続き、未習の文法項目を学びイタリア語の基礎力をつける。ネイティブスピーカーの発音を参考にしてミニ会話を自主録音し、音声課題として提出する。さらに、視聴覚教材を用いた実践練習を繰り返し、発話する力を定着させ、「好き・嫌い」の言い方、依頼表現、欲求を伝える表現、許可を求める表現をマスターする。近過去までを習得し自分の経験をイタリア語で述べることを目標とする。辞書を使って文化コラムを訳読し、文の構造を理解しながら「読む」力をつけていく。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 イタリア語	イタリア語中級I (旧:イタリア語コミュニケーション II A)	2前		1	イタリア語初級 I・II を基礎に中級レベルのイタリア文法を学ぶ。過去時制の概念を整理し、自分で使えるように実用フレーズを暗記して作文力をつけていく。買い物や食事に関する事項など、現地で学生生活を過ごすために教養として必要な知識を獲得しつつ、各場面で役立つ表現を身につける。視聴覚教材を多用してドラマ・映画の聴き取り練習を繰り返しながら、ミニ会話を自主録音し音声課題として提出する。語彙力を強化し、比較表現、命令法が使えることを目標とする。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 イタリア語	イタリア語中級II (旧:イタリア語コミュニケーション II B)	2後		1	イタリア語中級 I に引き続いて中級レベルの語彙力・読解力の定着を図る。条件法、接続法を用いた新聞記事・雑誌のコラム等の訳読も行う。映画の字幕をテキストとして、社会事情への理解を深めながら生のイタリア語が理解できるように視聴覚教材を使ってグループワークを行う。芸術作品や文化遺産のキャプションを例に、関係代名詞、遠過去を用いた高度な文体の読解にも取り組む。実用イタリア語検定4級から3級レベルの問題演習を随時取り入れる。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 ドイツ語	ドイツ語初級 I A(文法) (旧:ドイツ語コミュニケーション I A)	1前		1	文法に重点を置いてドイツ語の基礎を学ぶ。アルファベット表記、単語の発音の仕方から始まって動詞の活用や、名詞と形容詞の性数の区別と格変化、ドイツ語の構文パターンから、ドイツ語文法の基本構造を理解する。動詞活用や名詞等の性数格の違いを中心に辞書の使い方も学ぶ。問題演習を中心に文法をマスターしながら、簡単な文章を読み、自分で文を組み立てられるようにする。発音にも注意し、綴りを正確に音読してドイツ語に慣れる。	-	◎	-	-	-	-	○	○

区分	科目名	開講 時期	単位数		科目概要	文化政策学部DPとの関連				デザイン学部DPとの関連			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	DP4
必修外国語 ドイツ語	ドイツ語初級ⅠB(会話) (旧:ドイツ語コミュニケーションⅠB)	1前		1	平易なテキストをもとに、日常生活で使用される頻度の高いドイツ語の言い回しを中心に学習し、聞き取りと発話訓練を繰り返すことで、基本的な「聞く・話す」能力を習得する。場面ごとの挨拶から始めて、自己紹介、ものや人物について述べるなど、簡単な自己表現と意思疎通ができる程度の会話能力を身につけることを目標にする。これらの学習とあわせて、ドイツおよびドイツ語圏の社会や文化に対する理解も深めていく。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 ドイツ語	ドイツ語初級ⅡA(文法) (旧:ドイツ語コミュニケーションⅡA)	1後		1	ドイツ語初級ⅠAに引き続いて文法に重点を置いてドイツ語の基礎をより深化させる。時制や特徴的な動詞の活用、複合的な文の構造について学び、ドイツ語の複雑な仕組みをより正確に把握するとともに、基本的語彙や表現をさらに身につけて、辞書の使い方もマスターしていく。簡単な文章、例えば平易な雑誌・新聞記事などを読み、それらの情報をもとにして手紙・作文の学習・訓練を行う。これらの学習を通じて、ドイツ語圏の社会や文化に対する理解も深める。	-	◎	-	-	-	-	○	○
必修外国語 ドイツ語	ドイツ語初級ⅡB(会話) (旧:ドイツ語コミュニケーションⅡB)	1後		1	ドイツ語初級ⅠBに引き続いて、日常生活で使用される頻度の高いドイツ語の言い回しを中心に学習し、聞き取りと発話訓練を繰り返してより高度な「聞く・話す」能力を獲得する。一定のテーマに基づいた学生相互の対話練習も行い、旅行や買い物、学生間の交流などの場面を想定して、積極的に発話できるような会話能力・ヒアリング力の育成を図る。これらの学習を通じて、ドイツ語圏の社会や文化に対する理解をさらに深めていく。	-	◎	-	-	-	-	○	○
スポーツ活動	スポーツ活動A	1前		1	生涯にわたるスポーツを生活の中へ取り入れていくことができるよう、健康・体力問題に関する専門的な知識を習得し健康マネージメントを確立できることを目的とし身体活動の意義について実践を通して理解する。また、他の学生と共にスポーツのルールを遵守して活動することを通じ、コミュニケーション能力や協調性の向上を図る。	-	○	△	△	-	-	○	○
スポーツ活動	スポーツ活動B	1後		1	スポーツや健康・体力に関する各人の興味と関心をより深く掘り下げることを目的とし対人交流ならびに円滑なチーム運営方法の学習に基づき集団スポーツの特性を理解する。他の学生と共にスポーツのルールを遵守して活動することを通じ、他者とのコミュニケーションによる意思決定や課題解決の方法についても考察する力を涵養する。	-	○	△	△	-	-	○	○
総合	特別共同授業A～H	-	-	-	この科目は、ふじのくに地域・大学コンソーシアムの「西部地区共同授業」、「短期集中単位互換授業」等により単位を修得できる科目である。これらの科目では、主に静岡県西部地域の大学および企業・自治体の共同により、現代社会および地域が直面している課題についての講義や演習、フィールドワークを行い、それらの課題についての理解や多面的な視点の獲得を目指す。さらに、異なる大学の学生や地域住民、職業人との交流や議論等を通じ、コミュニケーション能力や課題解決に取り組む態度や志向性など、社会で活躍するための基礎的な力を養う。	-	-	-	-	-	-	-	-
総合	産官学連携授業A～H	-	-	-	この科目は、地域社会の未来を担う人材を育成するために、企業や団体・地方自治体と本学が連携、協働して設置、運営するものである。主に静岡県の企業や団体・地方自治体から講師人材の提供を受け、最先端の取り組み事例や現代社会および地域が直面している課題についての講義や演習を展開する。仕事や研究活動等に関する実践的な知識を身につけるだけでなく、現場で活躍する職業人との交流や議論等を通じ、仕事や研究等に取り組む態度や志向性など、社会で活躍するための実践的な力を養う。	-	-	-	-	-	-	-	-